

## 6月22日（月） ヘチマ （糸瓜）

4年生がヘチマを育てています。ヘチマを見たことのある人は多いでしょうね。ヘチマは漢字では「糸瓜」と書きます。糸の瓜と書くんですね。もともとは、「いとうり」と呼ばれていたそうです。昔の人は、ヘチマに石けんをつけて、体をゴシゴシと洗っていたのだそうです。

乾燥させるとよく分かりますが、ヘチマは、糸がからみあったようになっています。ウリの仲間で、糸のようなものだから「いとうり」と呼ばれ始めます。この「い」が発音しにくかったり、聞こえづらかったりして、ヘチマは「とうり」と呼ばれるようになります。「とうり」が、なぜ「ヘチマ」になったのかが面白いんです。

これは「イロハ歌」に関係しています。「イロハニホヘトチリヌルヲ・・・」と続きます。「ト」がある場所がヒントです。「ト」は、「へ」と「ち」の間にあります。へとちの間（ま）だから、ヘチマという名前に変わっていったというお話です。物の名前にはいろいろな意味やお話があるんですね。何でこんな名前なんだろう？と思ったら、調べてみましょう。

村越 新